

## 選択必修科目 外科臨床研修プログラム（一般外科除く）

臨床研修1年次に行う選択必修科としての外科研修プログラムであり、「一般外科」以外の外科領域に関する研修を目的としている。

すべての医師に求められる基本的臨床能力の習得の一環として、日常遭遇することの多い外科的疾患（一般外科以外）を有する患者に接し、これらの疾患群の診断、外科治療および周術期管理について実地に体験することにより、外科的疾患の診療に必要な基本的知識・技能・態度を身に付けることを目標とする。

### 1. 研修施設

獨協医科大学病院

### 2. 研修期間

1年次の1か月～

### 3. 指導責任者

金 彪 教授 種 市 洋 教授  
釜 井 隆 男 教授 妹 尾 正 教授 春 名 眞 一 教授  
朝 戸 裕 貴 教授 井 川 健 教授

### 4. 研修内容

- 1) 外 来 指導医の指導下で外来診療を行い、初歩的診断法、治療法を研修する。  
また、適時救急当直を行い、緊急時の対応を経験する。
- 2) 病棟・手術 指導医の監督下で入院患者の担当医としての自覚を持って診療する。  
また、適時当直を行い、緊急時、急変時の対応を経験する。
- 3) 教 育 手術症例検討会、CPC(臨床病理検討会)、抄読会、合同カンファランス、  
学会、研究会発表に参加する。

### 5. 研修目標

患者   医師 関	一 般 目 標 (G I O)
	患者中心の医療を実践するために、患者の心情とニーズを理解し、患者およびその家族と良好な人間関係と信頼関係を構築する
	到 達 目 標 (S B O)

	<p>医療面接の重要性を理解したうえで適切なコミュニケーションがとれる</p> <p>問診の過程で患者のニーズを把握できる</p> <p>生活指導（栄養、禁煙指導、運動、食事、在宅療養など）ができる</p> <p>患者・家族の心理的側面の把握と適切な指示、指導ができる</p> <p>プライバシーの保護に配慮ができる</p> <p>解り易い言葉で病状、治療方針が説明でき、インフォームド・コンセントを実行できる</p>
--	---

チーム医療	一般目標（GIO）
	医療チームの一翼を担うために、チーム医療の重要性を認識し、医師・看護師その他の医療スタッフと協調・協力して医療に参画できる
	到達目標（SBO）
	<p>指導医や専門医に適宜、適切に相談し、指導を受ける</p> <p>上司や同僚、他の医療スタッフとの良好なコミュニケーションがとれる</p> <p>チーム医療の意味と重要性が説明できる</p> <p>術前・術中・術後管理において、麻酔科など他の診療科の担当医と適切な意見交換ができる</p> <p>紹介、転院など他施設との情報交換や連携を実践する</p>

文書記録	一般目標（GIO）
	患者の情報を正しく把握するために、診療全般に関係する書類の重要性を理解し、正確に記載し適切に管理できる
	到達目標（SBO）
	<p>診療記録や手術記録、退院サマリーなどの医療記録を適切に記載する</p> <p>指示書、処方箋、検査指示書をわかりやすく正確に記載する</p> <p>診断書、死亡診断書、死体検案書、その他の証明書を適切に作成、管理する</p> <p>剖検所見の記載、要約作成に参加し、診療の向上に役立てる</p> <p>紹介状や紹介状の返信を作成する</p>

安全管理	一般目標（GIO）
	患者に安全な医療を提供するために、医療現場での医療リスク・安全管理を理解し、日常の診療に応用する
	到達目標（SBO）
	<p>医療現場での安全確認を理解し実施する</p> <p>医療事故防止および事故後の対処について、マニュアルに従い適切に行動する</p> <p>院内感染対策を理解し実行する</p>

基本的な診察法	一般目標 (GIO)
	外科的疾患の適切な医療を実践するために、全身の診察法を身につけ、主要な所見を把握し診療記録に正確に記載する態度と技能を習得する
	到達目標 (SBO)
	頭頸部診察：甲状腺、頸部リンパ節、鎖骨上窩リンパ節、頸部血管などの診察ができる
	胸部の診察：聴打診による呼吸、心音などの診察や視触診による乳腺の診察ができる 腹部の診察：腹膜刺激症状 (Blumberg sign、筋性防御)、肝・脾腫、腹部腫瘤 (腫瘍、ヘルニア、大動脈瘤)、腹水貯留などが診断できる 直腸の診察：直腸腫瘍、痔核・痔瘻、前立腺肥大などが診断できる 四肢の診察：浮腫、末梢循環障害、静脈瘤などが診察できる

基本的な臨床検査	一般目標 (GIO)
	外科的疾患の適切な医療を実践するために、臨床検査の方法を習得し、検査結果を解析して治療に反映する
	到達目標 (SBO)
	血液生化学的検査、動脈血ガス分析を指示し、その結果を解釈する
	尿検査、便潜血反応を行いその結果を解釈する
	細菌学的検査、細胞診、病理学的検査を指示し、その結果を解釈する
	心電図、胸部X線検査、呼吸機能検査、動脈血ガス分析などを行いその結果を解釈する
	腎機能検査を指示し、その結果を解釈する
	エックス線写真の異常所見を読影する
	腹部超音波検査を指示、又は指導医の指導下で実施しその結果を解釈する
C T、MR I、シンチグラムを指示し、その結果を判読する	
内視鏡検査、超音波内視鏡検査を指示し、その結果を判断する	
エックス線造影検査を行い、その結果を読影する	

術前管理	一 般 目 標 (G I O)
	適切な治療方針や術式を選択するために、患者の病態および検査成績を把握・評価し、術前管理を行う態度と技能を習得する
	到 達 目 標 (S B O)
	術前の全身管理、薬物投与の継続・中止等について説明できる 栄養管理（食事療法、経腸栄養、中心静脈栄養）、輸液管理を実施する 消化管造影、内視鏡検査、CT 検査などから手術適応を判断し、適切な治療を選択する 抗生物質や血液製剤の適応と副作用を熟知し、適切に処方する 化学療法の抗がん剤の副作用や投与方法を熟知し、適切に処方する 病態に応じて IVH や下剤、浣腸などの必要な術前処置を列挙し、指示する 経鼻胃管の挿入、導尿の処置を行う 麻酔科依頼書の適切な記載と麻酔科医との情報交換を行う 手術に際しての特殊医療機材の準備について理解し、指示する 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し、活用できる

外科基本手技	一 般 目 標 (G I O)
	安全な外科診療を実践するために、指導医の指導下で担当患者の手術に参加し、基礎的な知識と手技を習得する
	到 達 目 標 (S B O)
	手洗い、ガウンテクニックを習得し、清潔・不潔の区別を理解する 手術の種類に応じた患者体位をとり、手術野の消毒を正しく行う 局所麻酔法、麻酔薬の種類を熟知し麻酔する 腰椎麻酔の方法、注意事項を熟知し実施する 指導医の指導下で IVH などの穿刺、皮膚切開、縫合術などを行う 担当患者の手術が円滑に施行されるよう手術助手を努める ドレーン、チューブ類の挿入意義を理解し管理する 患者の本人確認、血液型確認を行い、医療の安全に寄与する

	一 般 目 標 (G I O)
	外科の基本的な手技を身につけるために、多様な外科処置の適応と方法を熟知し、安全に実施できる
	到 達 目 標 (S B O)
基本的手技	<u>気道確保</u> が行える
	<u>人工呼吸</u> を実施できる (バッグマスクによる徒手換気を含む)
	<u>心マッサージ</u> を実施できる
	<u>圧迫止血法</u> を実施できる
	<u>包帯法</u> を実施できる
	<u>注射法</u> (皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保) を実施できる
	<u>採血法</u> (静脈血、動脈血) を実施できる
	<u>穿刺法</u> (腰椎、胸腔、腹腔) を実施できる
	<u>導尿法</u> を実施できる
	<u>ドレーン・チューブ類の管理</u> ができる
	<u>胃管の挿入と管理</u> ができる
	<u>局所麻酔法</u> を実施できる
	<u>創部消毒とガーゼ交換</u> を実施できる
	<u>簡単な切開・排膿</u> を実施できる
	<u>皮膚縫合法</u> を実施できる
<u>軽度の外傷・熱傷の処置</u> を実施できる	
<u>気管挿管</u> を実施できる	
<u>除細動</u> を実施できる	

術後管理	一 般 目 標 (G I O)
	適切な術後管理を実践するために、術後の患者の全身状態を正確に把握し、異常な病態には迅速かつ適切に対処する
	到 達 目 標 (S B O)

	<p>バイタルサインから術後の患者の状態を把握する</p> <p>手術後の病態に応じた適切な呼吸・循環・栄養・輸液管理を行う</p> <p>ガーゼ交換を実施し、手術創やドレーン内容の性状の観察と解釈を行う</p> <p>術後出血、縫合不全、術後感染症などの合併症に対して適切な対処と治療計画を立てる</p> <p>経鼻胃管の抜去や抜糸、ドレーン抜去の原則を理解し、実施する</p> <p>術後の療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄など）を行う</p>
--	---

終末期医療	一般目標（GIO）
	全人的な終末期医療を全うするために、患者や家族の希望に配慮し、医の倫理の上に適切な治療方針を立て実践する
	到達目標（SBO）
	<p>終末期の医療倫理について説明できる</p> <p>人間的な立場に立って、診療を行う</p> <p>患者の心理状態を把握し、精神的なケアが行える</p> <p>患者、家族への配慮を怠らずコミュニケーションする</p> <p>十分な説明と同意のもと患者管理を行う</p> <p>死亡時の法的、社会的手続きが的確に行える</p>

## 6. 経験が求められる疾患・病態

### (1) 乳腺疾患

乳癌、乳腺症
--------

### (2) 運動器（筋骨格）系疾患

<p>(B) ①骨折</p> <p>(B) ②関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷</p> <p>(B) ③骨粗鬆症</p> <p>(B) ④脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）</p>
---

### (3) 生殖器疾患

(B) 男性生殖器疾患（前立腺疾患、精巣腫瘍）
-------------------------

(4) 脳神経系疾患

- (A) ①脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）  
②脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫）

(5) 眼・視覚系疾患

- (B) ①屈折異常（近視、遠視、乱視）  
(B) ②角結膜炎  
(B) ③白内障  
(B) ④緑内障  
⑤糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

(6) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患

- (B) ①中耳炎  
②急性・慢性副鼻腔炎  
(B) ③アレルギー性鼻炎  
④扁桃の急性・慢性炎症性疾患  
⑤外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物